



# 学校運営に関する保護者アンケートの結果

福島市立清水中学校

## 〈集計表について〉

- 1 結果の表示 ◎:そう思う ○:だいたいそう思う △:あまり思わない ×:思わない  
 2 平均値 例) No.1の表中「3. 23」の数字は、◎ (4点), ○ (3点), △ (2点), × (1点) で数値化した平均値である。  
 3 割合と総数 全体に占める割合 (%) と総数 (人) を表している。  
 4 表の見方 例) No.1「学校教育目標達成…」では、全保護者のうち◎と○の合計95%が肯定的な回答をしている。

### 学校運営の基本姿勢

No.1	学校教育目標達成への組織的な取組					No.2	清水中生としての誇りを胸に夢の実現					No.3	保護者・地域からの信頼・応援					No.4	指導力向上に向け意欲的に研修				
3.23	◎	○	△	×	計	3.21	◎	○	△	×	計	3.19	◎	○	△	×	計	3.12	◎	○	△	×	計
%	28	67	4	0	100	%	29	63	7	1	100	%	29	63	8	1	100	%	27	59	13	1	100
人	88	209	14	1	312	人	92	195	23	2	312	人	89	195	26	2	312	人	83	185	42	2	312

### 豊かな心を育成するために

No.5	特別活動の充実					No.6	総合的な学習の時間の活用					No.7	自己有用感, 自己肯定感を育てる指導					No.8	自己の生き方を深める道徳教育				
3.26	◎	○	△	×	計	3.09	◎	○	△	×	計	3.11	◎	○	△	×	計	3.23	◎	○	△	×	計
%	34	59	7	0	100	%	25	60	15	0	100	%	24	63	12	1	100	%	31	60	8	0	100
人	105	184	23	0	312	人	77	189	47	1	314	人	76	197	37	2	312	人	98	188	25	1	312

### 確かな学力を育成するために

No.9	ICTを積極的に活用した授業					No.10	思考力・判断力・表現力の育成					No.11	基礎的・基本的な知識・技能の育成					No.12	主体的な学習態度や学習習慣の確立				
3.35	◎	○	△	×	計	3.17	◎	○	△	×	計	3.15	◎	○	△	×	計	3.21	◎	○	△	×	計
%	40	54	5	0	100	%	26	65	9	0	100	%	26	62	12	0	100	%	30	61	9	0	100
人	125	170	17	0	312	人	81	203	28	0	312	人	82	194	36	0	312	人	94	189	28	1	312

### 健やかでたくましい心身を育成するために

No.13	継続的な安全教育の推進					No.14	体力・運動能力の向上					No.15	ウイルス感染防止, 健康教育の充実					No.16	美しく安全な学校環境づくり				
3.32	◎	○	△	×	計	3.36	◎	○	△	×	計	3.38	◎	○	△	×	計	3.33	◎	○	△	×	計
%	38	56	5	0	100	%	42	52	6	0	100	%	42	55	4	0	100	%	38	57	5	0	100
人	118	174	17	1	310	人	130	161	19	0	310	人	129	169	12	0	310	人	117	177	15	0	309

### 学びを支える環境づくりのために

No.17	幼保小中の効果的な連携					No.18	学校, 家庭, 地域の連携による教育活動					No.19	各種たより, HP等での情報提供					No.20	学校評価, 学校評議員の意見の活用				
3.20	◎	○	△	×	計	3.14	◎	○	△	×	計	3.44	◎	○	△	×	計	3.20	◎	○	△	×	計
%	31	58	10	1	100	%	27	61	12	1	100	%	49	45	5	0	100	%	31	60	8	1	100
人	97	180	30	3	310	人	83	187	37	2	309	人	153	140	16	1	310	人	95	186	26	3	310

<b>各項目平均値の評価基準</b>	
A : 3. 25 P以上	B : 2. 50 P以上
C : 1. 75 P以上	D : 1. 75 P未満

#### I 「学校運営の基本姿勢」に関する内容について

1	学校は、教育目標「自立と共生～学び続ける生徒～」の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	3.23 B
2	学校は、生徒に対し清水中生としての誇りと将来の夢を持たせるため、諸活動を推進している。	3.21 B
3	学校は、不祥事防止や問題行動への早期対応により、信頼、応援される学校づくりに努めている。	3.19 B
4	学校は、教師一人ひとりが、指導力の向上に向け、意欲的に研修を行っている。	3.12 B

#### II 重点努力事項 『豊かな心を育成するために』について

5	学校は、学級会活動や生徒会活動に生徒が積極的に参加できるよう働きかけている。	3.26 A
6	学校は、将来の自立するために必要なキャリア教育の充実に努めている。	3.09 B
7	学校は、生徒の自己有用感、自己肯定感を育てる指導の充実に努めている。	3.11 B
8	学校は、特別な教科道德の授業づくりに関し、協力しながら積極的に取り組んでいる。	3.23 B

#### III 重点努力事項 『確かな学力を育成するために』について

9	学校は、視聴覚機器やタブレットPCを活用した授業の導入に努めている。	3.35 A
10	学校は、課題に対し自らの考えを持ち、積極的に表現するための授業づくりに努めている。	3.17 B
11	学校は、基礎的・基本的な学習内容の定着のために、授業の工夫を図っている。	3.15 B
12	学校は、自主的に家庭学習に取り組み、意欲的に授業に参加できるよう継続的に働きかけている。	3.21 B

#### IV 重点努力事項 『健やかでたくましい心身を育成するために』について

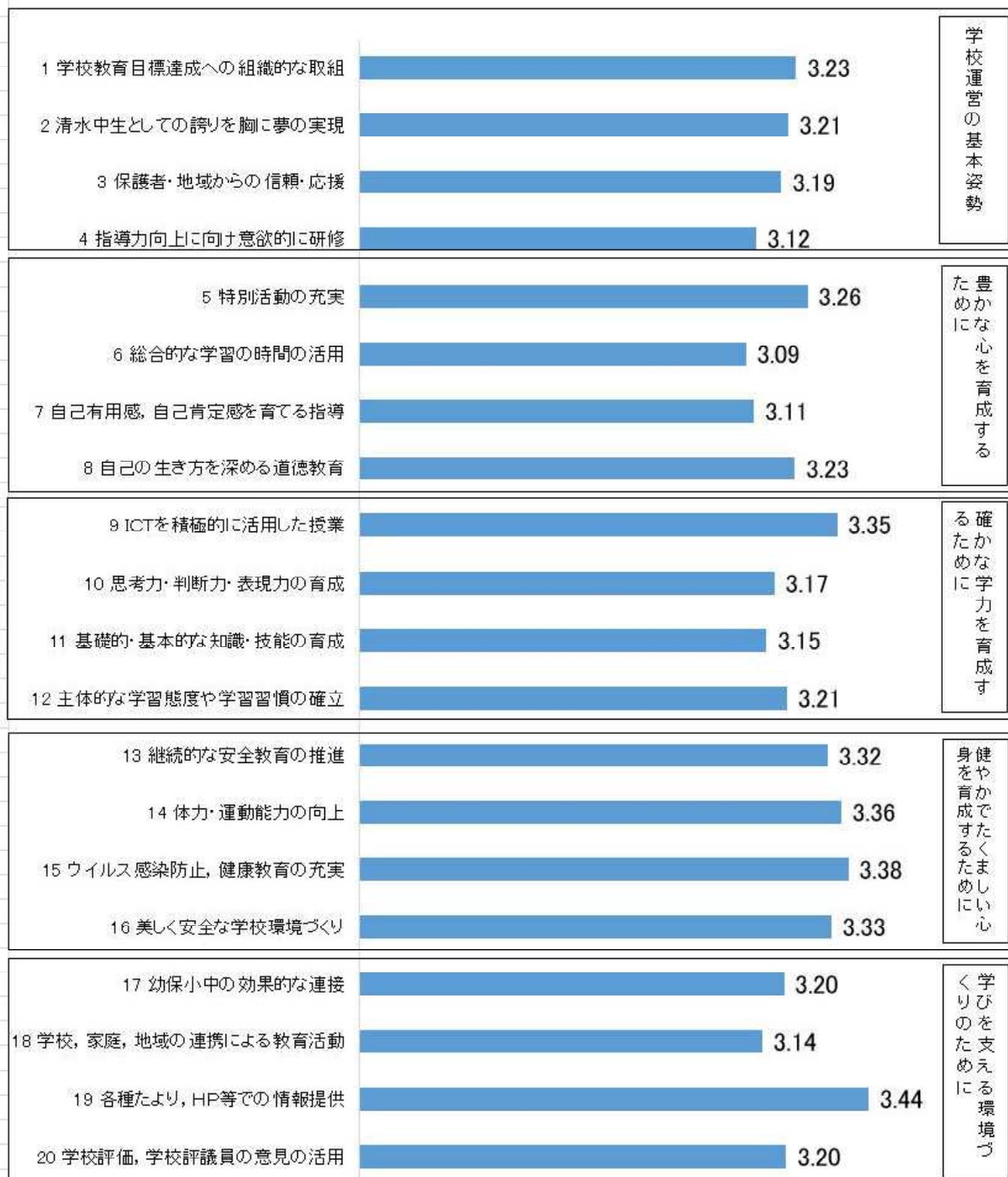
13	学校は、交通事故、学校事故、ネットトラブル等の未然防止のために、継続的な指導を行っている。	3.32 A
14	学校は、体育の授業や部活動を通して、体力・運動能力の向上に努めている。	3.36 A
15	学校は、コロナ感染防止対策及び食や歯の健康に関する指導等、健康教育の充実に努めている。	3.38 A
16	学校は、清掃活動の充実に努め、校舎内外の整理整頓及び日常的な消毒作業に努めている。	3.33 A

#### V 「学びを支える環境づくり」に関する内容について

17	学校は、関係する幼稚園・保育園・小学校との効果的な接続に努めている。	3.20 B
18	学校は、家庭や地域（後援会等）との連携による教育活動を推進している。	3.14 B
19	学校は、各種便り（学年だより、保健だより、生徒指導だより等）、ホームページ、緊急メール配信等で有効な情報を提供している。	3.44 A
20	学校は、学校評議員の意見や学校評価の結果を公表し、学校経営の改善に生かしている。	3.20 B

## 【集計ポイントグラフ】

◎: 思う (4点), ○: だいたい思う (3点), △: あまり思わない (2点), ×: 思わない (1点) で数値化し, 平均値を棒グラフで表したもの



## 本年度の課題の解決に向けて ～ポイントが低い3項目に関する対応策～

### ○ No.7「総合的な学習の時間の活用」(3. 09P)

本年度の総合的な学習の時間に関しては、コロナ禍による活動の制限により、計画の大幅な見直しを余儀なくされました。特に、総合的な学習の時間の中心的活動として位置付けているキャリア教育の推進に関しては、目玉となる2年生の職場体験活動が中止となり、代替行事として、職業人を育てる専門学校等の講師を学校に招いて、講話や体験実習を実施しました。講師の人数が限られ、多くの生徒のニーズに応えるまでには至りませんでした。さらに修学旅行や校外学習等の行き先変更や活動内容の変更を余儀なくされ、班別行動などの自己指導能力を育成する活動を経験させることが叶いませんでした。

今後は、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、重点目標に示した「将来に夢を抱き、実現に向けてひたむきに努力する生徒の育成」を実現するために、教職員一同で知恵と工夫を凝らし、効果的な体験活動の導入に努めて参ります。保護者や地域の皆様方のご理解とご支援をお願いいたします。

### ○ No.7「自己有用感、自己肯定感を育てる指導」(3. 11P)

近年、日本の若者の「自己肯定感の低下」に関しては、社会全体の課題として指摘されています。本年度はコロナ禍により、授業における対面でのグループ活動や意見交換の時間が制限されました。そのため、生徒一人ひとりの意見や発想を引き出し、それを生かして課題解決に迫る授業展開が難しい状況にありました。さらに、学校行事や生徒会活動、部活動においても、上級生の活動に刺激を受けたり、達成感を味わったりする機会を十分に確保することができませんでした。

今後も、活動が制限される環境は継続されますが、日々の授業の充実はもちろん、学校行事や生徒会活動、部活動においても、一人ひとりが生かされ、自己有用感が得られる場の設定に努めて参ります。また、自己の生き方について考えを深め、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせるために、道徳教育の要となる道徳の授業の一層の充実を図ります。

### ○ No.4「指導力の向上に向け意欲的に研修」(3. 12P)

今年度は、新たに導入された生徒一人一台のタブレット端末(iPad)が利用可能な環境となり、授業等における活用やオンライン授業の試行等を行いました。また、教師の指導力向上を目的とした現職教育では、授業におけるタブレット端末の活用について研究を進め、福島市教育委員会主催による学校訪問では、全教師がタブレット端末を利用した授業研究を行いました。

これからも子どもたちがさらに「わかる」、「できる」授業づくりに向けて、研修、研究を続けて参ります。今後とも保護者の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。